

# あかびらの 今と昔

今と昔のあかびらでは、どのように変化をしているのでしょうか。ここでは、昔の懐かしいイベントや風景、建物などを紹介していきます。

## 松浦 武四郎



松浦 武四郎

今年「北海道」命名150年にあたる年で、道内で記念行事などが行われています。命名したのは松浦武四郎で、この名前も最近、テレビや新聞などでよく見聞しますね。

松浦武四郎は、北海道が蝦夷地と呼ばれていた安政2年(1855年)、江戸幕府の「蝦夷地御用掛」に任用され、安政3年から5年にかけて北海道各地を調査しました。この間、安政4年5月に、未開の地だった空知川流域を調査し、赤平に石炭(露頭炭)があることを発見しました。

調査の記録によりますと、空知川を上り、赤平に差し掛かるころから「石炭」の記述が見られるようになります。赤平では「石炭が多い」。赤間の沢や大谷沢では「両岸に石炭が多く出ている」。茂尻では「石炭の崩れ落ちてい

るところは黒漆の屏風のようだ。川を上るほど豊富な石炭に興奮している感じが受け取れます。赤平市史の年表は「松浦武四郎、空知川を探検、沿岸で石炭を発見」から始まります(当然、アイヌの歴史ははるか昔からあったものと思います)。赤平と石炭は、松浦武四郎が赤平を見たときから、切っても切れない関係だったようです。

余談ですが、「シカが多い。クマもキツネもタヌキも…」との記述もありました。現在における動物の目撃情報の多さも、このころからすでに始まっていたのかもしれない。



岸の上のシカも、川を上る武四郎を眺めていたかもしれません(百戸橋から見た空知川)

### 地域おこし協力隊通信

高橋です！赤平に移住して2度目の夏を迎えました。

今年是全国的に長雨や日照不足が続き、農作物の収穫に大きな影響を与えています。赤平の農家の皆さんも本当に大変な苦勞をされているのだとあらためて感じています。

そんな地元農家さんが大切に育てた野菜が並ぶイベントを今年もAKABIRAベースで開催します。皆さん、ぜひいらしてください！

先日、赤平に雑誌「じゃらん」の取材班がやってきました！市内数カ所のスポットを私も一緒に回ってきました。今回取材した内容は今月発売のじゃらんに掲載予定です。

地域おこし協力隊 高橋



ホットレッグを片手にじゃらんの取材を受けました。